

石黒氏らは、弘前大学雇用政策研究センターが行った東北地方の若者の東京圏への移動に関する調査結果などを基に、次の通り指摘する。

収入面では、利益を得るのは高学歴者に偏っており、地域間移動の経済的コストをクリアできる「恵まれた環境」に生まれた者が「恵まれた立場」を手に入れることができる。

人間関係では、

東京圏に近い世代や年長の親族、既存の友人がいる。新卒採用時に県の出身者枠を設けている企業の寮に入れば、同じ高校出身の先輩が何人もいる。こうした口

ーカル・トラック（水路付け）により移動先が集中している東京圏と宮城県以外で就職したとき、むしろ孤立した状況に置かれると指摘する。

進路指導に当って、「個性化の時代なのだから、生徒一人一人が各地の就職先、進学先に自己選択で飛び立っていくことが望ましい」とはいえないのかもしれない。

「東京」に出る若者たち



石黒格、李永俊、杉浦裕晃、山口恵子 著
3150円 ミネルヴァ書房
☎075-581-0296

「東京」に出る若者たち
仕事・社会関係・地域間格差

なお、東京圏の大学に進学した者については、出身地で形成した人間関係の減少を、趣味ネットワークの拡大により補うという特徴も興味深い。そのほか、青森県から東京圏に出た高卒の若者に対するインタビュー結果から、労働現場が厳しく、仲間が次々と辞めて青森県に戻っていく中で残る者の苦悩が示される。逆に大卒で比較的高いスキルを持つ青森県出身者が、東京圏で生業として

いく過程も示される。

これらの調査が行われたのは、東日本大震災の1カ月前であった。しかし、「高い能力を要求する職業も、高度な教育の機会も、大都市に集中」している現状に対して、地域間格差の是正と教育機会均等の在り方を提唱する本書の意義は、むしろ高まっているといえよう。

（聖徳大学教授・西村美東士）

